



ふじみ自然塾 だより

2019.2.19

第 15-7号

発行；富士見市民大学
ふじみ自然塾
編集；同 企画運営スタッフ
発行日；不定期

1. 第16回講座 クロージング

2月16日13:30~16:00に渋谷農園(南畑)で、最終回講座・クロージングを行った。

まず、実習第1農場へ行き、小麦の麦踏みを行なった。第2農場では、長ネギ・人参と採種用大根の生育状況を見て回った。

その後、営農用農場へ移動し、ビニールハウス内で、春大根の種まきを行なった。南畑の土は三芳の土より重たいとのこと薄目に土を被せ、水やり、ビニールシートをベタ掛けした上にトンネルを掛け作業終了。そのほか野外では、イチゴやスナックエンドウなどの生育状況を見学した。

見学後は渋谷邸の庭で車座になって、準備したお茶菓子を食べ、お茶を飲みながらQ&Aと懇談。最後に1人



写真①；春大根の種まき

づつ、長かった10箇月間の感想などを述べ合った。

2. 2019年度 特別研修コース

1月26日に南畑公民館でオリエンテーションを行った。(第15-6号で既報のとおり)

2月17日13:30~15:00に鶴瀬公民館ボランティアビューローで第2回会合を行い、前期の作業予定・春作の作付レイアウト計画などを決定した。

今後の日程としては、来週の23日に春作準備作業、3月15~16日に味噌作り、30日に里芋の植付などを行うこととした。

また、15~16日の味噌作りの参加者を再確認した。また、持ち寄る道具類については、3月になってから確認することとした。

3. 公開映画会「未来の収穫」

2月9日10:00~12:00に鶴瀬西交流センター多目的ホールで公開映画会「未来の収穫」を開催した。この日の天気予報は記録的な寒波と10cm近い降雪ということで心配していたが、役員と日本語字幕翻訳者2名も含めた総入場者数は91名の盛況で、映画も内容的に一般の方にはどうかと心配していたが視聴者の感想を聴くと好評であり、企画立案者として安堵している。



写真②；翻訳者のお話

まずNPO法人富士見市民大学の小山理事長から挨拶があり、続いて翻訳者を代表して前田レイヌ氏からご挨拶いただく。簡単な自己紹介・この映画との出会い・映画の目的であるアグロエコロジーの可能性についてお話いただいた。

また、上映終了後もレイヌ氏から、「今、私たちに何ができるか？」というテーマで、「有機農業者を支える」「フランスの農薬反対運動に学ぶ」という話をいただいた。

映画は2012年のフランス映画で、国際有機農業映画

祭2017で本邦初公開されたものである。「農薬を使わずに世界人口を養えるのか？」マリー=モニク・ロバン監督は、この問いに答えようと世界各地を訪れ、複数作物の混作・草肥の利用・忌避植物とおとり作物の利用・不耕起栽培など、人と環境にやさしいアグロエコロジー農法の事例を紹介。

また、農家を支えるための輸入制限や流通・貯蔵設備を整備する事例、日本の生産者と消費者の提携の事例なども紹介している。